

令和8年9月11日

保護者各位

鳥栖市立鳥栖西中学校
校長 高木 健

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和8年度全国学力・学習状況調査について

令和8年4月23日、下記のような内容で全国一斉に中学校3年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 調査問題では、①と②が一体的に問われています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校生徒の姿

(1) 国語について

- ・全体の平均正答率は、全国平均を下回っていました。
- ・「思考力、判断力、表現力」の項目である「話すこと・聞くこと」については全国平均を上回っていました。しかし、「書くこと」や「読むこと」、「知識及び技能」の項目である「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を下回っていました。
- ・無回答率については、ほとんどの問題で全国平均を下回って良く書けてはいましたが、「国語辞典を参考にして、『ほうふつとさせる』と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す」問題や「二つの例文を比べながら、擬態語『きっぱり』が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く」問題の正答率は全国平均を下回っていました。

(2) 数学について

- ・全体の平均正答率は、全国平均を大きく下回っていました。
- ・「数と式」と「関数」については全国の平均正答率を下回っており、「図形」および「データの活用」については大きく下回っていました。
- ・問題解決の方法を数学的に説明する問題や、筋道を立てて証明する問題、データの傾向から判断の理由を説明する問題などの記述問題において無解答率が高く、課題が見られました。

(3) 英語について

- ・全体の平均正答率は、全国を大きく下回っていました。
- ・「書くこと」では、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある英文を正しく記述することが全国平均を大きく下回っていました。
- ・「聞くこと」「読むこと」では、日常的な話題の情報の聞き取りなどは比較的できていまし

たが、社会的な話題について、要点をとらえる力に課題があると言えます。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校生徒の姿

本校生徒は家族との会話が多く、いじめを許さない意識や地域貢献への意欲が高いなど生活面は良好で、鳥栖市として重視する朝食の喫食率も高いです。平日の学習では3時間以上学習する生徒の割合が全国平均を上回る一方、「30分より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合も全国平均を上回っており、二極化が見られました。ICT学習や読書時間は全国平均より短く、特に授業でのタブレットなどの、ICT機器の利用は全国と比べ大きく下回っています。生徒は発表やまとめの力を持つが、自力で学習に取り組むことは苦手で、話し合い活動には協力的という特徴があります。図書館利用は「行く生徒」は多いが頻度は低く、新聞は全国同様にほとんど活用していません。今後はICT活用の拡充と、自分で考え取り組む力の育成が学力向上の鍵となります。

4 今後の改善策（生徒の力をさらに伸ばすために）

- ・国語は、読み物教材の中で語彙力を伸ばしながら、長い文章を読むことに慣れさせていく学習に取り組みます。また、場面や目的に応じて考えを伝える活動を増やし、その中で表現を工夫することや、その工夫による効果を考え、生徒同士で説明し合ったり、気づきを伝え合ったりする等の学習を通して力を付けていきます。
- ・数学は、「考え方のプロセス」や「言葉・式による理由付け」を書き出す活動を日常的に取り入れ、途中の考え方でも粘り強く書き切る習慣（記述力の向上）を身に付けていきます。
- ・英語は、単語や短文の書き取りにとどまらず、まとまった量の英文（15～30語程度）を書く機会を日常の授業で積極的に設定し、指定された条件や理由を書くことができる力をつけていきます。また、情報の一部だけでなく、文章や音声全体の流れ・文脈（話し手の最も伝えたいことや登場人物の気持ちの変化など）を的確に把握する発展的な読解・聴解練習を継続的に展開します。
- ・英語、数学において、少人数授業や教師二人によるTT授業を実施し、一人ひとりの習熟度に合わせた個別の指導・フォローアップを行います。
- ・1時間の授業の流れ（めあて・振り返り）を統一するとともに、ICT（電子黒板やタブレット）を活用して視覚的に捉えやすい授業を展開します。
- ・各教科において、グループ活動を積極的に取り入れ、考えを説明し合ったり、話し合ったりする場面を設けます。これにより、生徒の自主的・意欲的な学習を促すとともに、根拠を持って自分の考えを説明する「思考・判断・表現」の力を育みます。
- ・家庭でも次のようなことに心がけてください。

1 家庭での学習時間・習慣をつくってください。

【学習時間：学年＋1時間（「家庭学習の手引き」参照）】

◎毎日決まった時間帯に机に向かう習慣を身に付けさせましょう。

◎スマホ・テレビ・ゲームなどの利用時間を事前にルール化し、長時間にならないよう声をかけをお願いします。

◎授業の復習や苦手教科の克服、テスト見直しなど、自主的に取り組む姿勢をサポートしてください。

2 生活リズムを整え、コミュニケーションの時間を大切にしてください。

◎必ず「朝食」を食べさせてから登校させてください。

◎早寝・早起きを心がけ、規則正しい生活習慣を維持できるようご協力ください。

◎日頃から学校での出来事や部活動、家庭での話題について対話する時間を持ち、お子様が頑張ったことや良くなった点を積極的にほめて自己肯定感を高めてあげてください。

